

こぼく
古木にも咲くと言ひけむ 鶯に
はつぎくら
宿にと問われ 初桜待つ

令和四年元旦

大中臣正比呂



花を想うという言葉は、夜想曲を連想させる。シヨパンのノクターン
二十一曲は、どれも耽美だ。春の桜に始まり、夏の向日葵ひまわり、秋の菊、
そして冬の椿。年が明ければ、美しい貴女に再会できるのだろうか。
屠蘇とその一杯は、鶯宿梅おうしゅくばいと露化粧つゆの初桜の化身か。